《修士論文要旨》

# モンゴルにおける発掘された木製品の研究について

メンドバザル　オユントルガ*

モンゴルでは発掘された遺物、遺跡、木製品を科学的に保存・修復を行う必要がある。また、発掘調査の結果から出土された木製品の木の種類をまとめ、保存科学をもっと注目させなければならない。これを実現するためにまだまだ直面する問題がたくさんあるが、今回の修士論文で、少しでも学生や研究者たちに興味を持ってもらいたいと思う。まず「モンゴルの考古学の発展」を確認し、「現在モンゴルにおける木製品の研究」について論じる。

モンゴル考古学の科学的な研究は20世紀のはじめごろから始まった。この時代から国内の研究者だけではなく、国際的な研究者とも協力し、多くの研究が進んだ。現在までさまざまな時代の遺物や遺跡の中から木製品が多数出土した。特にパザリク時代や匈奴時代、モンゴル時代などに、さまざまな民族が木材をよく使用していたと考えられているが、それぞれについての保存や修復はあまり行われてこなかった。なぜなら木製品などのもろいものに対して、保存科学における研究者がおらず、薬剤や分析機械などもない状態だからである。よって、発掘された木製品に対して、注目されていないと考えられる。また、現在まで共同で行ってきた発掘調査の中で、ロシアなどで木製品の保存・修復に関する調査が行われたのは数回しかない。

発掘調査の結果から、出土した木製品の中には、他国で使用されていたと考えられるものが多数発掘されており、当時、貿易があったことが伺える。このことから他国とモンゴルのつながりを持っている木製品の研究が重要であると考える。モンゴルで考古学的な研究が始まったころから、遊牧民が何百年もの間歴史上に存在した特徴・文化の研究や、使用していた道具の遺物や遺跡などの発掘を行ってきた。

生活用品については、紀元前７世紀ごろに発掘された木製品は種類が少なかったが、紀元前3世紀から紀元後１世紀と13世紀になってくると種類が増えてきた。これは発掘調査の結果から木製品が多く出土されたことで明らかになった。

## ＜時代別の木製品＞

紀元前７世紀から紀元前209年パザリク民族時代…日用品・宗教的な彫刻

紀元前209から紀元後８世紀までの匈奴時代や匈奴の次の時代…日用品・木造の城壁・建築の道具・戦争で使用する道具

平成23年度　*文学研究科文化財史料学専攻

紀元後８世紀から紀元後13世紀のモンゴル時代…日用品・木造の城壁・戦争で使用する道具・農具。この時代になると木製品の種類が豊かになってきた。特に、馬車や牛車、馬具などが増え、木製品の手工業の時代と考えられる。

紀元後13世紀から紀元後18世紀…木造の寺や神社。この時代は日用品などの細かい使用よりも、建築物に対しての用途が増えてきた。また、地域によって建築の特徴に差が出てきた。木製品を主に日用品として使用していた時代と区別される時代である。

## ＜地域による木の種類＞

地域による木の種類や森林については、モンゴルの森林は主に山岳地帯に多くあるが、均一には分布していない。北部のシベリアの凍土森林地帯から中央部で草原地帯に広がり、砂漠地帯の間までに分布している。

森林は140種類の高木と灌木があり、18,929,8千ヘクタールを占める。12.8万ヘクタールの森林面積のうち、針葉樹林が占める割合は81.2％、ザグ林と呼ばれるゴビに生える白い木が15.8％、灌木が３％。針葉樹林のなかでもカラマツが約70％を占める。モンゴルの森林に関する研究はあまり進んでいないが、もっと森林研究が進むと、将来、また、すでに発見された木製品の考古学研究において、各地域の木の種類が詳細に研究され、さらに発展すると考えられる。

## ＜考　　察＞

考古学の発展が、歴史や文化に非常に意義のある研究の先端を担っている。現在まで発掘された何百個の遺物や遺跡によって、遊牧していた民族が発見され、めずらしい重要な遺物や遺跡も発見できた。しかし、発掘調査で出土された遺物や遺跡の保存・修復の研究はまだまだ改善する必要がある。特に木製品の研究は非常にレベルが低く、難しい問題と考えられる。

## ＜今後の課題＞

研究者の間では、考古学と保存科学の研究を同時にしようという動きがあるが、国の支援は望めない。今後は、保存科学の分野を発展されるために、国に働きかけて研究を行う必要がある。そして、多くの研究者や学生を海外に派遣し、多くの知識を集め、資料や本を作成しなければならない。そのためには、海外からの知識も必要になる。このことを行うために、考古学研究所だけではなく、さまざまな考古学と関係があるセンターなどとの連携が不可欠だ。また、現在考古学を学んでいる学生たちの知識を高め、学生に興味を持たせることも必要だ。これが実現すれば、保存科学が発展し、個人レベルではなく、国レベルで保存・修復が行われるのではないだろうか。

## ＜おわりに＞

日本で学ぶまで私も保存・修復に関しては、知識がほとんどなかった。しかし、今は、学生時代より保存科学が理解できるようになり、このことについて危機感を覚え、注目しなければならない分野になっていると思っている。今回は木製品の研究をテーマとして出しているが、将来の木製品の研究に対しては少し影響を与えられるのではないだろうかと信じている。

奈良大学や奈良文化財研究所などで、現在行われている木製品の保存方法に関して書かれた機械などのマニュアルをモンゴル語に翻訳し、研究者と考古学を学んでいる学生たちが使えるような手引書などを作り、貢献したいと思っている。